宝生会 月並能

二〇一九年十二月八日（日）
開演 十三時
開場 十二時十五分
於 宝生能楽堂

13:00

頼政

シテ 辰巳満次郎
ワキ 殿田 謙吉
間 内藤 連
大鼓 亀井 忠雄
小鼓 大倉源次郎
笛 小野寺竜一
後見 高橋 章
小林与志郎
東川 光夫
地謡 澤田 宏司
今井 泰行
小林 晋也
小倉 敏克
小倉健太郎
大坪喜美雄
高橋 亘
金森 秀祥

14:25

痩松

石田 幸雄
岡 聡史

〈休憩十五分〉

14:55

花筐

ツレ 山内 崇生
子方 藪 俊太朗
シテ 當山 孝道
ワキ 野口 敦弘
ワキツレ 野口 能弘
〃 野口 琢弘
〃 吉田 祐一
大鼓 柿原 崇志
小鼓 観世新九郎
笛 松田 弘之
後見 三川 淳雄
武田 孝史
地謡 和久荘太郎
小倉伸二郎
大友 順
佐野 登
登坂 武雄
亀井 保雄
田崎 隆三
金井 雄資

16:35

乱

シテ 藪 克徳
ワキ 高井 松男
大鼓 大倉栄太郎
小鼓 森澤 勇司
太鼓 桜井 均
笛 一噌 幸弘
後見 宝生 和英
前田 尚廣
地謡 内藤 飛能
高橋 憲正
水上 優
野月 聡
朝倉 俊樹
中村孝太郎
佐野 由於
藤井 雅之

終演予定 十七時二十分頃

演目の解説

能「頼政」（よりまさ） 宇治の里に立ち寄った諸国一見の僧が、山の姿や川の流れを眺めていると、老人に声をかけられます。僧が宇治の名所旧跡を尋ねてもはつきりとは答えず、老人には案内してもらえず、ただ宇治川の方に芝だけが残つてい僧を誘いますと、扇の形に思つた僧が尋ねると、武人は昔この場所で源三位頼政と答え、自分が扇を敷いて自害した所かと重ねて問うと、老人は霊であるとほのめかして消え失せます。僧が頼政の跡を弔い、宇治川を隔て頼政の武者姿で頼政が現れ、自分は将来の体を語ります。奮戦したが、敗れて自害するまでを語ります。

狂言「痩松」（やせまつ） 丹波の国（現在の京都府・兵庫県あたり）に住む山賊が、最近稼ぎが悪いので、今日こそ何とか獲物を得たいと谷間に隠れていると、女が通りかかる。山賊は長刀を振り上げて女を脅し、持ち物を奪い取って獲物を物色するが、隙をつかれて女に長刀を奪われてしまう。長刀を向けられた山賊は手も足も出なくなり…。

能「花筐 大返」（はながたみ） 越前の国にあった大迹部皇子は神武天皇の五代後に当たっていましたが、武烈天皇の後継として継体天皇となり急遽都に上ることになりました。皇子に仕えていた照日前はたまたま宿下がりをしていたところに、皇子の臣下から文を花筐を手渡されます。皇子切れぬ想いから侍女を喜びながらも断ち切れを継承した事を伴って天皇の後を追い、大和玉穂の宮で一行に追いついた照日は、天皇の前で、李夫人を想う漢王を謡った舞を舞い、再び召し使われることになり、共を許されます。

能「乱」（みだれ） 楊子の市で酒を売る孝行の男、高風の処に、いつも立ち寄り酒を飲んで行くものがあった。不審に思った高風が名を尋ねると、海中に住む「猩々」と答え親孝行な高風に、酌めども尽きぬ酒壷を与えるのです。高風が潯陽の江まで来るようにと言います。高風が潯陽の江で待っていると、猩々が現れ、舞を舞って去って行きます。能は高風が潯陽の江に行くところから始まり、「猩々」の常の中ノ舞が、波の上を戯れるような特殊な足遣いをする「乱」という舞に変わり、そのまま曲名にもなりました。

次回予告

二〇二〇年一月十二日（日）
十四時始

翁 宝生 和英
翁附之式
竹生島 宝生 和英
田村 高橋 亘

文化庁文化芸術振興費補助金
（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会